

## 入選

**彦坂 天音**(ひこさか あまね) 由木中 1年生

作品名:この本が私を変えた

図書:プリ♥ドリ プリンセス・ドリーム 運命のトビラ!

私がこの本を読むのは実に五回目になります。初めて読んだのはちょうど一年前の夏でした。当時の私は読解力が乏しく、表紙がかわいいという理由だけでこの本を買いました。読む前は、プリンセスたちがおどったり、楽しく食事をする物語だと思っていました。しかし、読んでみると、シンデレラのような物語で、最後は衝撃の展開で感動しました。

主人公は小学五年生の咲良ねーね。ねーねは、両親を事故で失い、親せきの家で居候していますが、朝から晩まで家の仕事をさせられる日々を過ごしています。しかし死んだお母さんが言っていたように、笑顔でいれば、いつかきっと「運命のトビラ」が開いて、幸せになれると信じて、前向きに生きています。ある日、夢の楽園ともいわれる、ネプチューン王国の土国王がテレビでプリンセスの募集をすると発表。これは「運命のトビラ」を開くチャンスかもしれない、そう思ったねーねは親せきに知られぬよう、こっそり応募をします。全国から十万人の応募があるなかからねーねは三人のプリンセス候補に選ばれます。待ち受けていたのは二人の最強のライバルでした。そんな中、ねーねはネプチューン王国のプリンセスになることができるのか、ねーねがあきらめずに戦う場面、衝撃のラストに感動するお話です。

私はこの本を読む前に、自分からチャンスを棒にふるってしまったり、諦めてしまったりしたことがありました。それは、小学六年生の学校の授業でのことでした。科目は理科で、私は理科が苦手でした。教科書の問題を解く時間になり、はあ、とため息をもらし、教科書に視線を落としました。すると、何とということでしょう、偶然、塾で習ったことのある問題と似たような問題がのっていたのです。しかし、当時の私は、人前では自分の考えが全く言えず、問題を解いたときの答え合わせなどでは、間違っていたらどうしよう、間違えたらはずかしい、という気持ちがどうしてもあり、手を挙げかけたものの、すぐにおろしてしまいました。学校からの帰り道、会社から帰ってくるお母さんに会いました。そして、今日、学校であったこと

を話しました。もちろん、手を挙げられなかったこともです。すると、気晴らしに本屋さんに行こうと言われました。私は読書が大好きだったので、近所の本屋さんに行くことにしました。

そのとき、私はある本に目を奪われました。それが、プリ・ドリでした。単に表紙がかわいかっただけではなく、買ってもらいました。家に帰り、早速読み始めました。はじめは、プリンセス・ドリームって、どういうことなのだろうと思いました。ページをめくっていくにつれて、ねーねの勇敢さに心を打たれました。何事にも挑戦する、諦めないねーねの姿を想像すると、問題の答え合わせのときに間違えたらどうしよう、はずかしい、という自分がはずかしくなりました。そこで、明日こそ、手を挙げる、そう心に誓いました。

翌日、今日は土曜授業の日。普段の授業よりも見ている人は多いですが、勇気をふりしぼって、手を挙げました。絶対間違っている、そう思った瞬間、先生の「正解！」という声が聞こえました。私はそれだけでも、うれしかったのですが、先生は、さらに「挙手できて、えらいね！」と言ってくれました。私は自信とうれしさが同時にこみあげてきました。

この本を読んで、挑戦すること、あきらめないことの大切さを学びました。今は、食べ物やスポーツ、勉強……とジャンル問わず、いろんなことに挑戦しています。そして、自分に自信をもって、生活しています。今の自分があるのも、プリ・ドリのおかげだと思っています。この本を世に送りだしてくれた著者に感謝します。